

令和7年度モニタリングシート

【施設名等】

施設名	大洲市肱川高齢者生活福祉センター	位置	大洲市肱川町宇和川65-1
指定管理者名	医療法人 恕風会	所管課	高齢福祉課 TEL0893-24-1714

【施設の概要】

設置年月日	平成5年5月1日	構造	本館:鉄筋コンクリート平屋建 別館:木造平屋建
設置目的	高齢者に対して、介護支援機能、居住機能及び交流機能を総合的に提供することにより、高齢者が安心して健康で明るい生活を送れるように支援し、もって高齢者の福祉の増進を図る。		
施設機能	本館：デイサービス事業(ホール兼食堂、機能訓練室、一般浴室、特殊浴室等) 支援ハウス事業(単身用4室、夫婦用3室) 別館：障害者の日常生活訓練等事業		
利用料金等	・デイサービス事業:介護報酬の1割、2割又は3割及び実費 ・支援ハウス事業:条例第10条の利用料金、光熱水費、供用雑費 ・障害者の日常生活の訓練等事業:交通費、材料費		
開館・閉館	デイサービス事業、障害者の日常生活訓練等事業の休館日…12月30日から1月3日 生活支援ハウス…年中無休		
指定管理業務内容	・大洲市老人デイサービスセンター肱流苑 ・生活支援ハウス ・障害者の日常生活の訓練等事業		
施設管理体制	・デイサービスセンター:管理者1名(生活相談員兼務)、生活相談員3名(3名兼務)、看護職員3名(3名兼務、非常勤1名)、介護職員10名(うち3名兼務、非常勤3名)、機能訓練指導員3名(3名兼務、非常勤1名、派遣リハ職員含む)、調理員4名(非常勤3名)、環境整備員3名(非常勤) 支援ハウス:管理者1名、生活援助員1名 害者の日常生活訓練等:(休止中)		

【施設利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
R7年度	761	761	691	692	646	705	748
R6年度	823	892	868	861	789	813	870
比較	△ 62	△ 131	△ 177	△ 169	△ 143	△ 108	△ 122
	11月	12月	1月	2月	3月	計	
R7年度	766	718	687	730	785	8,690	
R6年度	830	777	679	642	775	9,619	
比較	△ 64	△ 59	8	88	10	△929	

【指定管理者としての収入・支出(決算)】

収入内訳	収入金額	支出内訳	支出金額
指定管理料	3,010,000	材料費	2,848,805
通所介護事業	56,187,870	通所介護事業費	55,160,027
介護予防・日常生活支援事業	16,416,024	介護予防・日常生活支援事業費	28,380,556
生活支援ハウス事業	1,890,141	生活支援ハウス事業費	4,762,658
精神デイサービス事業	0	精神デイサービス事業費	224,056
国庫補助金収入	390,915		
雑収入	1,511,283		
受取利息	15,302		
合 計	79,421,535	合 計	91,376,102

*指定管理料は生活支援ハウス事業収入に算定されます。

【サービス向上に向けた取り組み】

R7 年度	生産性向上委員会を毎月開催し、一人でも多くの利用者に質の高いケアを届けることを目標に業務のムリ・ムダの洗い出しを行いました。まずは5S を意識した職場環境の整備に取組み、利用者様や職員にとって使いやすい環境への改善を行いました。また職員の業務の煩雑さを改善するために、インカムを導入し職員間の連絡調整が迅速に対応できる体制を構築しました。結果、情報共有の仕組みが整い時間配分が改善されています。併せてゆっくり入浴したいという利用者様のご希望に沿い、終日入浴できる体制に変更致しました。 令和7年11月から大洲記念病院の協力を得て、リハビリテーション科からリハビリ職員4名が日替わりで肱流苑で個別機能訓練を行っています。病院で受けるようなレベルの高いリハビリをデイサービスでも受けることが出来るようになり、利用者様からも大変好評をいただいています。 施設のパンフレットをリニューアルし、各方面へパンフレットを配布するとともに、苑で提供している昼食を居宅のケアマネさんに試食していただくなど、幅広く肱流苑の良さを知っていただく機会につなげることができました。
R6 年度	感染症対策については 5 類後に数回の感染が発生しているが活動時にな感染予防は継続して行っている。令和6年度は感染対策を行うながらも地域交流や活動性の向上に努めていきご利用者様が安心して楽しめる活動をおこなっている。 令和4年より事業のICT化を進めてきているが職員一人一人が理解できていない部分があり全員が理解行動し業務改善を行うことにより、利用者個々に寄り添える時間を作り、その希望が叶えることができる支援を行う。 職場環境の改善として職場環境の整備、業務の明確化と役割分担、手順書の作成、記録報告様式の工夫、情報の共有化、OJT の仕組み作り、事業の理念、行動指針の徹底を行っていき人材育成につなげていきたい。

【利用者から要望と対応状況】

利用者からの苦情・要望等	利用者からの苦情・要望への対応
特になし	特になし

【指定管理者の自己検証】

令和7年度の利用者総数は8,690人で、前年と比べ929人の減、対前年度比90.3%、となりました。また決算については収入が79,491,535円(対前年比92.1%)、支出が91,376,554円(対前年度比87.4%)となりました。結果、収支については△11,954,567円(対前年度比65.0%)と引き続き大きな赤字となっていますが、業務改善に取り組んだ結果、支出については約1,300万円を減額することが出来ましたが、収入についてはデイサービス部門だけで約800万円の減となっています。

本年度につきましては、職員数の見直しや職員全員で無駄な出費の見直し等、この一年間支出削減に全力で取り組んでまいりました。しかし山間地という環境の厳しさから、送迎にも多くの人手や時間が掛かるなど職員を減らすことにも限界を感じています。また施設の大きさからも管理に多額の費用を要する点も厳しさの一つと言えます。

また、肱川・大川地区の人口減による利用者数減少の影響は甚だ大きく、今後も介護事業収入増が見込めないまま、法人としての負担が続く場合は指定管理の継続は困難と言わざるを得ません。引き続き利用者の確保と合わせ、人員整理や業務改善を含めた経営改善に全力で取り組んでいく所存ではありますが、今後の運営については早急な判断が急務と思われます。

【施設所管課の検証・評価】

事業実施については、指定管理に関する基本協定書及び仕様書の内容を満たしている。

生産性向上委員会を軸とした5S活動の徹底や、インカムの導入による業務の効率化・情報共有の迅速化が図られており、業務改善の取り組みが着実に進められている。

利用者の希望に沿った「終日入浴体制」の構築や、大洲記念病院との連携による質の高い個別機能訓練の導入を実現されている点は、利用者の満足度向上およびサービスの質の向上に繋がっている。また、パンフレットのリニューアルやケアマネジャーへの試食会など、積極的な広報・営業活動を展開することで、地域の介護支援事業所との連携強化にも努められている。

引き続き、生産性向上の取り組みを定着させるとともに、地域に開かれた質の高いサービスの提供に努めていきたい。